

第143期 報告書

(平成20年3月1日から平成21年2月28日まで)



松竹株式会社



松山ケンイチ
小雪 伊藤英明 佐藤浩市 小林薫

原作 白土三平
(赤ひげ主演映画)

監督 崔洋一

脚本 宮藤官九郎

生き抜け！負けるな

カムイ 外伝

2009.9

配給 松竹  www.kamugaiden.jp

NOT FOR SALE

株主の皆様へ



松竹株式会社

代表取締役社長 迫本 淳一

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、当社は第143期（平成20年3月1日から平成21年2月28日まで）の事業活動を終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。
 なお、当期の期末配当金につきましては、1株当たり3円とさせていただきます。
 株主の皆様におかれましては、今後尚一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業の概況（連結）

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国金融危機に端を発した世界的経済情勢の悪化が、株式・為替市場の混乱を招き、企業経営を圧迫したことに伴い雇用情勢が悪化し、個人消費も弱まるなど、厳しい状況で推移いたしました。

映画業界は、人気テレビドラマの映画化等、流行をとらえた邦画が堅調な伸びをみせたものの、洋画の不振により興行収入は前年を下回り、スクリーン数の増加に観客動員が伴わない状況下で、映画館淘汰の動きが顕在化いたしました。ビデオ・DVD市場の冷え込みも合わせ、映画市場全体が引き続き大変厳しい状況となりました。演劇業界は、伝統文化の歌舞伎やミュージカルをはじめ、人気のある俳優や魅力ある演目による話題性の高い舞台が観客を集めましたが、企画によってお客様による取捨選択の目が厳しく、興行の格差が一段と顕著になってきており、お客様のニーズに応じた魅力ある作品の提供が強く求められています。不動産業界は、企業の経営環境が急速に悪化しており、オフィス市況でも空室率が上昇するなど沈滞化が目立ちました。

このような状況下、当社グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。以上の結果、当連結会計年度は、売上高94,994百万円（前連結会計年度比101.5%）、営業利益1,575百万円（同82.9%）、経常利益732百万円（同57.8%）となり、特別利益3,563百万円、特別損失3,211百万円を計上し、当期純利益は172百万円（前連結会計年度は339百万円の純損失）となりました。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

【目次】

■株主の皆様へ	1
■事業の概況（連結）	1
■対処すべき課題	4
■第143期トピックス	
米アカデミー賞外国語映画賞受賞「おくりびと」	6
歌舞伎座さよなら公演	8
■業績の推移・連結	10
連結貸借対照表	11
連結損益計算書	12
連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）	12
連結株主資本等変動計算書	13
■業績の推移・個別	14
貸借対照表	15
損益計算書	16
株主資本等変動計算書	17
■当社の情報	18
■グループ会社一覧	19
■株主メモ	20
■株主優待基準	21

□映像関連事業

配給は、邦画12本、洋画5本、アニメ1本、シネマ歌舞伎3本を公開いたしました。「ライラの冒険 黄金の羅針盤」「犬と私の10の約束」「ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌」、テレビドラマとの連動企画「赤い糸」等が健闘いたしました。若年層を狙った作品や洋画作品が苦戦いたしました。その中で、平成20年9月公開の「おくりびと」は、モンリオール世界映画祭グランプリ獲得を皮切りに、日本アカデミー賞10部門の最優秀賞に選ばれたほか日本国内の映画賞を総なめにし、遂には日本初の快挙となる米アカデミー賞外国語映画賞を受賞し、国内外から高い評価を得ました。国内では根強い人気でロングランを続けておりましたが、凱旋上映では更に話題を呼び、公開25週目にして週末興行収入成績第一位に輝くなど、当社配給作品の中で当期一番のヒット作となりました。

興行は、洋画作品の不振や期待された「ハリー・ポッターと謎のプリンス」の公開時期延期により、厳しい興行状況となりました。このような環境の中で、平成20年7月オープンの「新宿ピカデリー」は、独自の企画・サービスや柔軟な番組が編成できる強みを生かしてオープン以来好成績を維持し、平成21年2月末には入場者数100万人を突破するなど、収益に大きく寄与いたしました。また、連結子会社の㈱松竹マルチプレックスシアターズにおいては、「MOVIXつくば」が平成20年10月にオープンいたしました。

テレビ制作は、一昨年15年ぶりに復活した「必殺仕事人」の2009年版新シリーズが、高視聴率と絶賛の声に応じて、当初3月末までだった放送期間を6月末まで延長するなど好評を博しました。その他、正月10時間ドラマ「寧々～おんな太閤記」、特撮シリーズ「トミカヒーロー レスキューフォース」TV版・劇場版、連続時代劇「刺客請負人」シーズン2、CS放送「虹への手紙」等、多種多様な11作品82本を制作いたしました。権利ビジネスでの番組販売も順調に推移し、「ばちんこ必殺仕事人Ⅲ」は好稼働を続け、収益に大きく貢献いたしました。

映像ソフトは、「ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌」や「犬と私の10の約束」、ジャッキー・チェンとジェット・リー二大スター共演の「ドラゴン・キングダム」の発売が収益に大きく貢献いたしました。また、「男はつらいよ」第1作公開40周年記念プロジェクトでは、東劇での特集上映、葛飾区柴又帝釈天境内での野外上映会、特集TV番組の制作、HDリマスター版DVDの発売等、全社をあげて取り組みいずれも好評を得ました。記念発売された、本編全48作に特別編1枚・特典ディスク5枚を加えたDVD54枚組「寅んく」は話題を集め、ヒット商品となりました。

テレビ放映権販売では、主力である地上波・ゴールデンタイム放送枠の視聴率の低迷や、映画専門枠の減少および予算の削減が続く厳しい状況ですが、「釣りバカ日誌」シリーズは好調で、高い視聴率を集め収益にも貢献いたしました。

海外向け作品販売は、各国マーケットの冷え込み中で、「おくりびと」の米アカデミー賞外国語映画賞およびモンリオール世界映画祭グランプリ受賞は海外のセールスに一役を買い、平成21年2月末時点で世界約40ヶ国での配給が決定し、引続き販売国数は拡大しております。

CS放送事業は、連結子会社の㈱衛星劇場において運営しておりますが、平成20年5月より新規事業としてインターネット映画配信サービス「松竹ONLINE」を立ち上げ、充実したサービスを提供いたしました。

□演劇事業

歌舞伎座は、華やかな顔ぶれによる「四月大歌舞伎」、恒例の「團菊祭五月大歌舞伎」、坂東玉三郎・市川海老蔵顔合わせによる「七月大歌舞伎」、野田秀樹作・演出の「野田版愛陀姫」が話題となった「八月納涼大歌舞伎」、新春1月からは「歌舞伎座さよなら公演」として更に豪華な配役とお客様のリクエストに応えた演目で話題を集め、いずれも高収益をあげました。

新橋演舞場は、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」、つかこうへい作・演出の「幕末純情伝」、藤山直美の「年忘れ喜劇まつり」が話題を呼び、市川海老蔵を中心とした「初春花形歌舞伎」、中村勘三郎、藤山直美、柄本明等の多彩な出演者による人気シリーズの再演「帰ってきた 浅草パラダイス」が好成績を収めました。

関西では、大阪松竹座にて、豪華顔ぶれの「壽初春大歌舞伎」、若手花形俳優が揃った「二月花形歌舞伎」が好評を博し、また藤山直美と前川清の共演「なのおみまつり」や沢口靖子と西川きよしの共演「女ひとり ミヤコ蝶々物語」、OSK日本歌劇団のレビュー等関西にちなむ作品も健闘いたしました。

南座は「坂東玉三郎 中国・昆劇合同公演」、藤山直美の「水無月喜劇名作公演」、「當る丑歳 吉例顔見世興行」等が話題を呼び、好成績を収めました。

その他の松竹主催公演は、日生劇場での「舟木一夫5DAYSコンサート」「越路吹雪物語」の再演、ダンスエンタテインメントショー「World's Wing 翼 Premium 2008」、上演機会を重ねて更に練り上げられたシアターコクーンでの「夏祭浪花鑑」、浅草寺境内で2ヶ月にわたり公演いたしました平成中村座では、片岡仁左衛門を迎えての「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」、英語版の公演も行った「法界坊」が、それぞれ話題を呼び好評を博しました。また恒例となりました浅草公会堂の「新春浅草歌舞伎」は若手俳優の活躍により好成績を収め、三越劇場の初春新派公演「太夫さん」も健闘いたしました。

巡業公演では、恒例の「第二十四回 四国こんびら歌舞伎大芝居」、公文協主催による「松竹大歌舞伎」東コース・中央コース・西コース、松本幸四郎「勸進帳」千回記念の「東大寺奉納歌舞伎」、地方の子供たちへ歌舞伎の面白さを伝える文化庁助成の歌舞伎学校巡迴公演、落語「小米朝改め桂米團治襲名披露公演」等の多彩な公演で好稼働いたしました。

海外公演は、中村勘三郎を中心とする「平成中村座」ドイツ・ルーマニア公演、世界遺産の伝統演劇である日本の歌舞伎と中国の昆劇との「坂東玉三郎 中国・昆劇合同公演」がともに現地で高い評価を得て国際文化交流に貢献いたしました。

シネマ歌舞伎は、坂東玉三郎の「ふるあめりに袖はぬらさじ」や山田洋次監督が演出も手がけた「人情 断文七元結」そして「連獅子」等、好評の舞台を上映し、好稼働いたしました。3シーズン目を迎えた「METライブビューイング」は、全国の映画館10館で同時上映するなど、順調に展開し、オペラファンの層を広げました。

□不動産事業

不動産賃貸では、各ビルとも一層の経費削減と効率的運営に努めました。テナントの退去や若干の空室を解消できなかったビルもありましたが、築地松竹ビル（ADK松竹スクエア）、有楽町センタービル（有楽町マリオン）等順調に推移し、安定収益の確保に貢献いたしました。特に平成20年7月竣工の新宿松竹会館は、好立地を生かし賃貸収入に大きく寄与いたしました。また、歌舞伎座再開発につきましては、建替えに向けて準備を進め、東京都へ都市計画提案を行いました。

□その他の事業

プログラム・キャラクター商品は、「ライラの冒険 黄金の羅針盤」「ナルニア国物語 第2章：カスピアン王子の角笛」や「おくりびと」「赤い糸」等の健闘に加え、平成20年9月よりオープンしました映画関連商品専門のWEB&モバイル通販サイト「Froovie／フルービー」の展開により、販路が拡大いたしました。駐車場・店舗等各種事業所につきましても堅調に推移いたしました。

また、「松竹歌舞伎検定」は第一回として4級の試験を実施し、10代から90代という幅広い世代、約1,700名の方々が受験されました。

連結子会社の松竹衣裳(株)は、演劇・舞踊・映画・テレビ業界の貸衣裳を中心として、堅調な成績を収めました。

各事業別の売上高は、次のとおりです。

事業別	売上高（前連結会計年度比101.5%）
映像関連事業	51,766百万円（99.8%）
演劇事業	26,187百万円（106.2%）
不動産事業	6,762百万円（111.4%）
その他の事業	10,276百万円（93.8%）

対処すべき課題

今後のわが国経済は、世界的な金融危機の深刻化や株式・為替市場の変動の影響など、景気の更なる下押し圧力が高まり、企業の収益や資金調達環境、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、国内民間需要も更に弱まっていく可能性が高く、当面悪化が続くものと思われまます。このような状況のもと、当社グループにとりましては、消費者の価値観の多様化や異業種からの参入等、更に厳しい経営環境が続くことが予想されます。

当社グループは、企業価値を発展・活性化させ、あらゆる世代のお客様に喜んでいただける映像・演劇のコンテンツを創造するとともに、その基盤となる人材を育成すべく、コンプライアンス・CS推進活動などを促進いたします。そして、内部統制プロジェクトチームを中心として効率的且つ適正な業務体制を構築し、信頼性の確保に努めて参ります。

また、当社グループの中核事業である映像・演劇事業は、予想と実績の乖離が大きいという特性を踏まえ、安定した収益基盤を着実に強化し、事業を展開いたします。

映像関連事業は、映画の製作・配給につきまして、企画の選別力を強化し、優れたパートナーとの連携も深めることで、時代のニーズをとらえた作品の提供に努めて参ります。そのた

めに、邦画・洋画を問わずお客様に喜んでいただける、バリエーションに富んだ作品を厳選して揃え、1本1本丁寧な営業・宣伝・販売活動に邁進すると同時に、厳しい市場環境も踏まえて収益性を精査して参ります。

映画興行につきましては、自社配給作品に加えて充実した番組編成を行い、集客に努めるとともに、CS推進活動を浸透させることで、お客様に選ばれる劇場サービスの提供に努めて参ります。また、フラッグシップシアターとしての新宿ピカデリーを中心に増収を図り、作品の力だけに頼ることなく、各劇場において独自のイベントやサービスを実施して他社との差別化を図り集客力をアップさせ、同時に運営経費を見直すことで低コスト体制を確立し、収益の向上を図ります。

映像ソフトは、自社配給作品の新作発売タイトル販売益の最大化を図るとともに、原作品の企画販売等、旧作名作の活性化にも積極的に取り組んで参ります。権利販売では、商品化等に力を入れるとともに、TV向けVODサービスにおいて、他の邦画4社と共同で新しい配信形態を展開いたします。

テレビ制作は、好評の時代劇シリーズや二時間ドラマの制作に止まらず、新たな企画制作にも挑戦するとともに、権利ビジネスを中心とした番組販売の拡大を図って参ります。

演劇事業は、「歌舞伎座さよなら公演」を中心とした歌舞伎をはじめ劇団新派等の伝統的な演劇、更にミュージカルや人気テレビドラマの舞台化等、新しいジャンルにも積極的に挑戦し、お客様に喜んでいただける舞台を提供いたします。また、歌舞伎を国内・海外に広めるため、巡業や海外公演を積極的に展開して参ります。この他にも、演劇と映像が融合した「シネマ歌舞伎」「METライブビューイング」も引き続き充実した作品を提供いたします。お客様が求める娯楽は時代とともに移り変わり、価値観の多様化が進んでおりますが、多彩な事業展開を行い、増収増益を図るとともにコスト削減にも取り組んで利益向上に努めます。

不動産事業は、建物施設の保全管理に注力し、快適な環境づくりに努めるとともに、積極的に全国保有不動産の利用価値の最大化を目指し、安定収入の確保に努めます。リニューアル工事を行いました松竹京都撮影所では、立命館大学と京都府との産学公連携プロジェクトが始動し、新たな映像製作や将来を担う人材の育成、映像技術の研究開発等、文化の創造・発展に寄与して参ります。また、歌舞伎座再開発につきましては、第144期上期末を目処に再開発計画概要を発表する予定です。この開発は、将来の当社グループの中心となる事業であり、今後も関係各者と協議を図り、慎重に計画を進めて参ります。

その他の事業は、劇場商品事業につきまして通販サイト「Froovie／フルービー」が本格的に稼働し、大作・話題作の公開に合わせて、大々的な商品通販戦略を展開いたします。また、「歌舞伎座さよなら公演」プロジェクトに参画するなど、各種さまざまなイベントを企画・実行することで、演劇・映像とも連携した事業の充実を図ります。好評をいただいている歌舞伎の総合ポータルサイト「歌舞伎美人」は今後モバイル版を立ち上げ、「松竹歌舞伎検定」は4級に加えて3級の試験も実施し、更なる歌舞伎ファンの拡充を目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

米アカデミー賞外国語映画賞受賞

おくりびと



©2008 映画「おくりびと」製作委員会

去年の秋、2008年9月13日に全国220館で公開された「おくりびと」は、公開32週目で観客動員530万人、興行収入60億円という数字を記録し、大ヒット作品となりました。

主人公はご遺体を棺に納める納棺師——評価の高さに反して、あるTVディレクターからは、「いい映画だけど朝の番組で棺桶は見せられない」といった言葉が飛び出すなど、「おくりびと」のプロモーションは、決して順風満帆とはいえませんでした。

しかし、作品に息づく笑いと涙、胸に沁み込む感動に、「当社が手がける価値が必ずある」と信じてやまないスタッフ一同の粘りは、やがてモントリオール世界映画祭グランプリ受賞という大きな追い風を呼びました。こうして品質保証を得た本作は、公開直前に大きくマスコミに取

り上げられることになったのです。封切直後には興行収入30億円を狙える位置を獲得し、そこから更なるチャレンジが始まりました。確実に年末年始の映画賞レースで話題になることを見据え、ロングランにこだわり続けたのです。そして日米アカデミー賞の授賞式が立て続けに行われる2月下旬には、再び公開規模を180館に広げ、万全の体制を敷きました。

そして、日本映画で初となる第81回アカデミー賞外国語映画賞の受賞という快挙が、社会現象を巻き起こすことになったのです。

「おくりびと」の“おくりびと”としての貴重な経験を糧に、これからも良質な作品の“おくりびと”たるよう、一層の努力をして参ります。



Photo by Kevin Winter/Getty Images for okuribito
©A.M.P.A.S® Best Foreign Language Film



歌舞伎座さよなら公演



ご承知のとおり歌舞伎座は明治22年に開場し、現在の劇場は、昭和26年に復興再開場した四代目の建物でございます。近年、建て替えが検討されて参りましたが、正式に平成22年4月末の閉館が決定いたしました。それに伴い歌舞伎座では、平成21年1月から平成22年4月まで、16ヶ月間に亘る「歌舞伎座さよなら公演」を開催いたしております。

かわきりに、平成21年1月2日、「歌舞伎座さよなら公演古式顔寄せ手打式」を挙行いたしました。顔寄せとは、興行の諸取り決めが定まったしるしとして座元と出演俳優が揃って手を締める古くからの行事です。今回は歌舞伎俳優、演奏家、舞台関係者等総勢200名が紋付姿で舞台へ一堂に会し、歌舞伎界の総力を結集して、翌日から開幕するさよなら公演に向かうことをご披露いたしました。

また、さよなら公演に先立ちまして、「お客様が選ぶ好きな歌舞伎」アンケートを実施いたしました。その結果も参考にさせていただき、多くのご支持をいただいた演目を配しながら、古典歌舞伎から新作歌舞伎まで、さよなら公演ならではの配役でご高覧に供し

ております。この先も、皆様にお楽しみいただける演目を鋭意選定中でございます。

さよなら公演の発表以来、歌舞伎座に対する世の中の注目度も高まっており、有難いことに連日たくさんのお客様にお越しいただいております。これを好機として、歌舞伎の魅力をもっと広くアピールする試みをしております。一人でも多くのお客様にご覧いただき、さよなら公演を盛り上げることが、五代目の歌舞伎座へ続くエネルギーになると存じております。次世代へ歴史をつなげていくのが、日本が世界に誇る歌舞伎を預かる企業である松竹の使命と考え、一層の努力をして参ります。引き続き皆様のご後援を賜りますようお願い申し上げます。



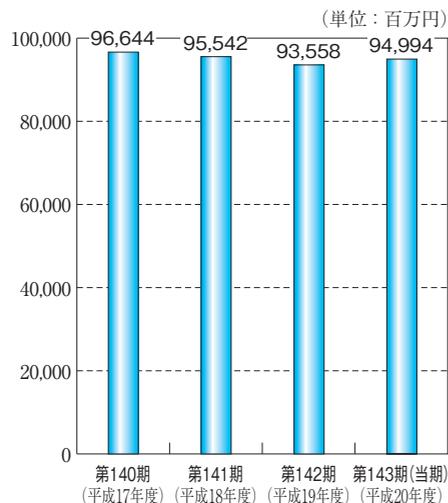
□業績の推移・連結

連結貸借対照表

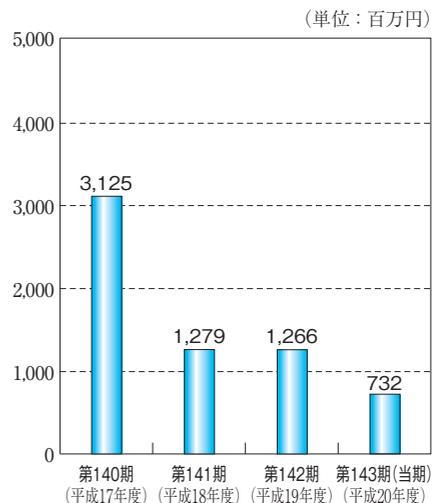
(平成21年2月28日現在)

(単位：千円)

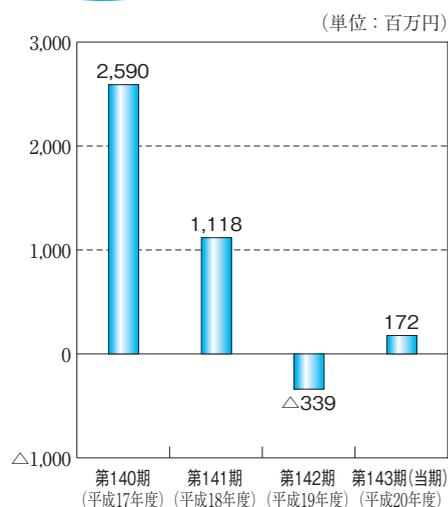
売上高



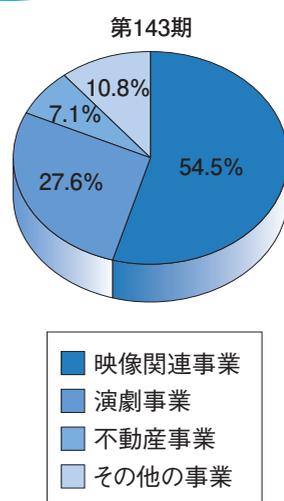
経常利益



当期純利益



事業別売上



科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	32,948,040	流動負債	37,464,209
現金及び預金	12,280,576	支払手形及び買掛金	8,582,905
現金及び預金 (責任財産限定対象)	593,365	短期借入金	1,672,200
信託預金 (責任財産限定対象)	3,808,970	一年以内返済予定長期借入金	18,827,076
受取手形及び売掛金	6,763,071	一年以内返済予定長期借入金 (責任財産限定)	1,005,000
たな卸資産	5,063,689	一年以内償還予定社債	500,000
前渡金	1,144,853	未払金	2,208,762
前払費用	660,501	未払費用	1,192,464
繰延税金資産	632,565	未払事業所税	96,908
替	425,452	未払法人税等	316,336
未収消費税等	58,007	未払消費税等	136,736
その他	1,565,867	賞与引当金	406,907
貸倒引当金	△48,878	リース資産減損勘定	76,995
固定資産	121,099,360	その他	2,441,917
有形固定資産	97,526,084	固定負債	59,097,865
建物及び構築物	21,930,072	社債	1,300,000
信託建物 (責任財産限定対象)	15,658,389	長期借入金	25,306,094
設備	15,804,658	長期借入金 (責任財産限定)	24,994,500
機械装置及び運搬具	905,127	繰延税金負債	826,937
工具・器具・備品	1,431,590	退職給付引当金	1,065,443
土地	22,964,376	役員退職慰労引当金	565,791
信託土地 (責任財産限定対象)	18,751,834	受入保証金	4,835,139
その他	80,034	リース資産減損勘定	184,158
無形固定資産	2,936,995	その他	19,800
借地権	1,283,969	負債合計	96,562,074
商標権	13,859	純資産の部	
ソフトウェア	385,610	株主資本	56,982,462
のれん	1,206,411	資本金	28,143,695
その他	47,144	資本剰余金	25,199,900
投資その他の資産	20,636,281	利益剰余金	4,829,276
投資有価証券	9,814,470	自己株式	△1,190,410
長期貸付金	2,731,911	評価・換算差額等	△257,153
長期前払費用	450,420	その他有価証券評価差額金	△257,153
繰延税金資産	315,741	新株予約権	77,522
差入保証金	5,705,883	少数株主持分	684,938
その他	1,802,704	純資産合計	57,487,768
貸倒引当金	△184,851	負債・純資産合計	154,049,843
繰延資産	2,442		
株式交付費	2,442		
資産合計	154,049,843		

連結損益計算書

(平成20年3月1日から
平成21年2月28日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	94,994,198
売上原価	56,955,828
売上総利益	38,038,370
販売費及び一般管理費	36,463,166
営業利益	1,575,203
営業外収益	921,285
受取利息及び配当金	411,881
その他の利益	509,403
営業外費用	1,763,915
支払利息	1,167,634
借入金による投資損失	439,423
その他の損失	4,297
経常利益	152,559
特別利益	732,573
特別利益	3,563,315
固定資産売却益	2,446,964
投資有価証券売却益	516,055
関係会社整理損戻入益	14,916
退職給付信託設定益	428,258
訴訟和解金	144,697
特別損失	12,422
特別損失	3,211,219
固定資産売却損	7,291
固定資産除却損	360,503
固定資産臨時償却費	48,698
映像商品等償却損	132,972
投資有価証券売却損	78,359
投資有価証券評価損	48,177
減資損失	2,399,904
劇場公演中止損失	50,313
和解金	60,000
約金	25,000
税金等調整前当期純利益	1,084,670
法人税、住民税及び事業税	385,843
法人税等調整額	1,064,837
少数株主損失	538,611
当期純利益	172,600

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(平成20年3月1日から
平成21年2月28日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,082,095
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,257,556
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,355,879
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14
現金及び現金同等物の増減額	2,180,403
現金及び現金同等物の期首残高	9,430,356
現金及び現金同等物の期末残高	11,610,760

連結株主資本等変動計算書

(平成20年3月1日から
平成21年2月28日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成20年2月29日残高	28,143,695	25,066,497	5,114,202	△1,349,917	56,974,478
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△372,520		△372,520
連結子会社減少に伴う剰余金減少			△85,005		△85,005
当期純利益			172,600		172,600
自己株式の取得				△68,486	△68,486
自己株式の処分		133,403		196,227	329,630
持分法適用会社の持分率変動による差額				31,765	31,765
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額 (純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	133,403	△284,925	159,506	7,984
平成21年2月28日残高	28,143,695	25,199,900	4,829,276	△1,190,410	56,982,462

	評価・換算差額等		新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
平成20年2月29日残高	2,550,071	2,550,071	65,708	1,290,210	60,880,468
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△372,520
連結子会社減少に伴う剰余金減少					△85,005
当期純利益					172,600
自己株式の取得					△68,486
自己株式の処分					329,630
持分法適用会社の持分率変動による差額					31,765
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額 (純額)	△2,807,225	△2,807,225	11,813	△605,271	△3,400,683
連結会計年度中の変動額合計	△2,807,225	△2,807,225	11,813	△605,271	△3,392,699
平成21年2月28日残高	△257,153	△257,153	77,522	684,938	57,487,768

□業績の推移・個別

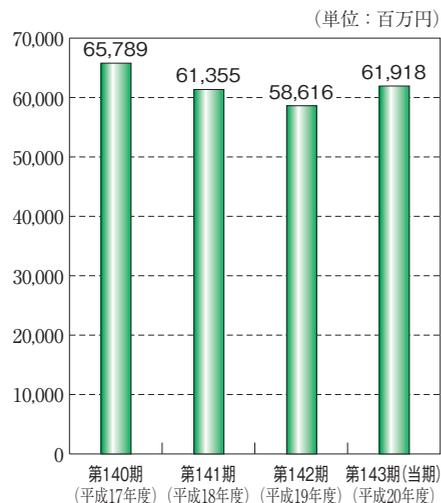
貸借対照表

(平成21年2月28日現在)

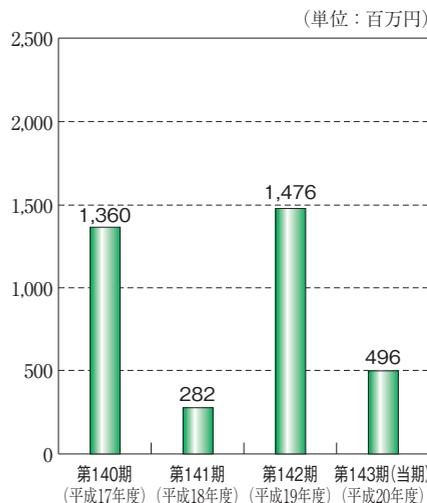
(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	22,414,956	流動負債	29,344,520
現金及び預金	8,439,448	買掛金	5,622,474
受取手形	117	短期借入金	18,164,732
商掛	5,185,579	社債(1年以内償還)	500,000
製成品	894,932	未払金	1,807,539
原材料	73,579	未払費用	812,710
仕掛品	1,416	未払事業所税	55,877
貯蔵品	2,854,564	未払法人税等	96,227
前払費用	17,194	前受金	924,793
繰延税金資産	993,418	預り金	854,305
短期貸付金	200,120	賞与引当金	312,001
立替金	566,101	リース資産減勘定	7,394
未収消費税等	1,116,299	その他の流動負債	186,465
その他の流動資産	279,524	固定負債	28,119,702
貸倒引当金	56,018	社債	1,300,000
	1,797,555	長期借入金	21,187,835
固定資産	91,826,476	繰延税金負債	91,446
有形固定資産	53,267,384	退職給付引当金	289,477
建物	20,873,548	役員退職慰労引当金	430,500
設備	7,818,959	リース資産減勘定	9,741
構築物	140,372	受入保証金	4,810,702
機械及び装置	651,408	負債合計	57,464,223
車両運搬具	1,183	純資産の部	
工具・器具・備品	1,218,708	株主資本	56,901,811
土地	22,563,203	資本金	28,143,695
借地権	1,189,366	資本剰余金	25,062,312
商標権	974,866	資本準備金	23,068,561
ソフトウェア	13,526	その他資本剰余金	1,993,750
投資その他の資産	200,973	利益剰余金	4,423,165
投資有価証券	37,369,725	その他利益剰余金	4,423,165
関係会社株式	8,522,000	固定資産圧縮積立金	3,638,748
関係会社出資金	12,473,359	繰越利益剰余金	784,417
長期貸付金	9,296,068	自己株式	△727,361
差入保証金	4,704,353	評価・換算差額等	△199,681
その他の投資	872,311	その他有価証券評価差額金	△199,681
貸倒引当金	△1,397,209	新株予約権	77,522
投資損失引当金	△1,640,879	純資産合計	56,779,651
繰延資産	2,442	負債・純資産合計	114,243,874
株式交付費	2,442		
資産合計	114,243,874		

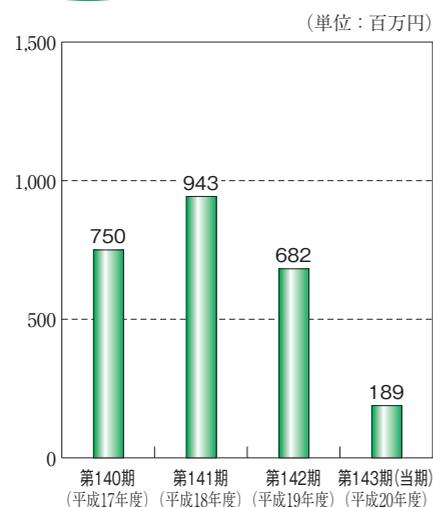
売上高



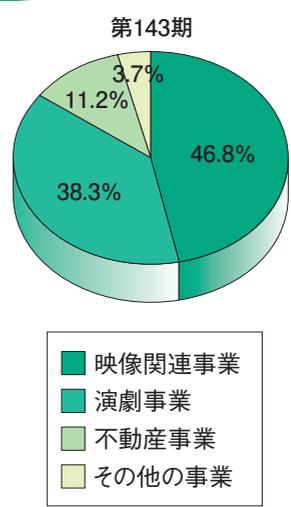
経常利益



当期純利益



事業別売上



損益計算書

(平成20年3月1日から
平成21年2月28日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	61,918,582
売上原価	40,105,540
売上総利益	21,813,042
販売費及び一般管理費	21,365,226
営業利益	447,815
営業外収益	801,870
受取利息及び配当金	495,835
その他	306,034
営業外費用	753,114
支払利息	620,521
その他	132,593
経常利益	496,571
特別利益	3,637,572
固定資産売却益	2,416,964
投資有価証券売却益	515,826
関係会社株式売却益	45,000
関係会社整理損戻入益	14,916
退職給付信託設定益	500,167
合意解約金	144,697
特別損失	2,617,407
固定資産除却損	231,375
固定資産臨時償却費	48,698
関係会社整理損	97,445
関係会社株式売却損	64,600
投資損失引当金繰入額	1,640,879
減損損失	484,095
劇場公演中止損失	50,313
税引前当期純利益	1,516,735
法人税、住民税及び事業税	27,903
法人税等調整額	1,299,326
当期純利益	189,505

株主資本等変動計算書

(平成20年3月1日から
平成21年2月28日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
平成20年2月29日残高	28,143,695	23,068,561	1,997,935	25,066,497	2,533,935	2,074,188	4,608,124	△682,056	57,136,260
事業年度中の変動額									
固定資産圧縮積立金の積立					1,146,797	△1,146,797	-		-
固定資産圧縮積立金取崩					△41,984	41,984	-		-
剰余金の配当						△374,464	△374,464		△374,464
当期純利益						189,505	189,505		189,505
自己株式の取得								△64,156	△64,156
自己株式の処分			△4,185	△4,185				18,852	14,666
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)			△4,185	△4,185	1,104,812	△1,289,771	△184,958	△45,304	△234,448
事業年度中の変動額合計					3,638,748	784,417	4,423,165	△727,361	56,901,811
平成21年2月28日残高	28,143,695	23,068,561	1,993,750	25,062,312	6,172,585	1,293,597	4,423,165	△727,361	56,901,811

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成20年2月29日残高	2,568,720	2,568,720	65,708	59,770,689
事業年度中の変動額				
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金取崩				-
剰余金の配当				△374,464
当期純利益				189,505
自己株式の取得				△64,156
自己株式の処分				14,666
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	△2,768,402	△2,768,402	11,813	△2,756,588
事業年度中の変動額合計	△2,768,402	△2,768,402	11,813	△2,991,037
平成21年2月28日残高	△199,681	△199,681	77,522	56,779,651

当社の情報 (平成21年2月28日現在)

□会社の概要

商号 松竹株式会社
 設立 大正9年11月
 資本金 28,143,695,022円
 従業員数 609名

本社、支社および営業所
 本社
 東京都中央区築地四丁目1番1号
 電話 03-5550-1533 (総務課)
 関東支社(東京)
 関西支社(大阪)
 九州営業所(福岡)

当社ホームページ
<http://www.shochiku.co.jp/>

□株式の状況

発行可能株式総数 300,000,000株
 発行済株式の総数 125,695,578株 (自己株式952,943株を含みます。)
 株主数 19,894名 (前事業年度末比350名増加)
 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数	出資比率
株式会社歌舞伎座	4,802,000株	3.82%
株式会社みずほコーポレート銀行	4,500,000	3.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	4,435,000	3.53
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,344,000	3.46
セコム株式会社	3,700,000	2.94
三井物産株式会社	3,700,000	2.94
株式会社大林組	3,600,800	2.86
大成建設株式会社	3,444,000	2.74
西松建設株式会社	3,288,000	2.62
株式会社東京放送	2,542,000	2.02

□役員

代表取締役会長	大谷 義
代表取締役社長	大迫 本一
専務取締役	野田 嗣
専務取締役	安孫子 正厚
常務取締役	中島 文
取締役相談役	上田 清
取締役	油谷 文昇
取締役	白井 彦起
取締役	松本 一郎
取締役	荒牧 大雅
取締役	武中 雅人
取締役	細田 光人
常勤監査役	岡田 敏彦
監査役	柏木 俊勝
監査役	中川 勝弘

グループ会社一覧 (平成21年2月28日現在)

□連結子会社

- ・松竹衣裳(株)：舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・株松竹サービスネットワーク：映画関連グッズの販売、各種イベントの企画制作および運営、不動産管理・清掃、フラワー事業、損害保険の代理、警備
- ・松竹関西サービス(株)：不動産管理・清掃
- ・株ショウビズスタジオ：舞台、映画、テレビ、ラジオの番組企画・制作並びに音響効果の企画・制作・再生
- ・中映(株)：浅草中映劇場他4スクリーンの映画館運営
- ・松竹芸能(株)：タレント・俳優の養成並びにマネージメント、演劇・テレビドラマ・イベントの企画・制作
- ・(株)衛星劇場：CS・CATV放送、ソフト製作・編集【衛星劇場・ホームドラマチャンネル】
- ・(株)松竹京都撮影所：劇場用映画・テレビ映画の製作、短編・CM映画の製作並びに請負
- ・株松竹デジタルセンター：映像制作、編集およびDVDオーサリング
- ・株松竹マルチプレックスシアターズ：複合映画館(シネマコンプレックス)の開発・運営
- ・(株)トライメディア：劇場上映のCMの制作および送出、その他のマルチメディア全般の企画開発等
- ・松竹音楽出版(株)：映画音楽の制作並びに音楽著作権の管理
- ・歌舞伎座舞台(株)：演劇舞台の大道具製作・販売
- ・株松竹ニューセレクト：複合映画館「MOVIX本牧」(8スクリーン)の映画館運営
- ・(株)伝統文化放送：CS・CATV放送局、ソフト製作・編集
- ・(株)関西美術：演劇舞台の小道具製作・賃貸
- ・日本演劇衣裳(株)：舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・株ムービーチャンネル：CSのPPV放送局、ソフト製作・編集【POWER PLATS】
- ・株歌舞伎チャンネル：CS・CATV放送局、ソフト製作・編集
- ・株松竹エンタテインメント：俳優・芸能タレント・音楽家・スポーツ選手・アーティストの育成並びにマネージメント
- ・匿名組合築地ビルキャピタル：ADK松竹スクエアの賃貸借および管理

□持分法適用会社

- ・アナザヘヴン(株)：映画の制作および配給、並びにその請負・販売
- ・(株)サンシャイン劇場：サンシャイン劇場の賃貸、演劇・映画の興行他
- ・札幌シネマフロンティア(株)：複合映画館「札幌シネマフロンティア」(12スクリーン)の運営
- ・(株)イヤホンガイド：演劇劇場内イヤホンガイドサービス
- ・日本映像振興(株)：映像関連イベントの企画・運営
- ・(株)歌舞伎座：歌舞伎座その他事務所・店舗の賃貸
- ・新橋演舞場(株)：新橋演舞場その他の事務所・店舗の賃貸

株 主 メ モ

事業年度 3月1日から翌年2月末日まで

定時株主総会 毎年5月下旬

株主確定基準日 定時株主総会 2月末日
 期末配当 2月末日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先

〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

単 元 株 式 数 1,000株

公 告 掲 載 新 聞 東京都において発行する日本経済新聞

◎株式に関するお手続きのご請求について

次のフリーダイヤル電話およびインターネットでも24時間受け付けておりますので、ご利用下さい。

0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行 本店証券代行部)

0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行 大阪証券代行部)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会下さい。

【お知らせ】

1. 株券電子化によるご注意

(1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

(3) 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を經由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合せ下さい。

(4) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金額取証」により配当金をお受取になれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

株 主 優 待 基 準

【株主優待権利確定日および優待期間】

権利確定日	映画優待期間	演劇優待期間
毎年2月末日	毎年6月1日～同年11月30日	毎年6月分～同年11月分
毎年8月末日	毎年12月1日～翌年5月31日	毎年12月分～翌年5月分

※6ヶ月ごとに株主様へ優待内容通知をご送付いたします。

【映画優待 ポイント付与基準】

保有株式数	6ヶ月優待ポイント数 (1ヶ月使用可能ポイント数)
1,000株以上	80ポイント (40ポイント)
2,000株以上	160ポイント (60ポイント)
3,000株以上	200ポイント (80ポイント)
5,000株以上	280ポイント (100ポイント)
8,000株以上	400ポイント (120ポイント)
10,000株以上	480ポイント (140ポイント)

【演劇優待 枚数基準】

保有株式数	6ヶ月優待枚数
3,000株以上	2枚
5,000株以上	4枚
8,000株以上	6枚
10,000株以上	8枚
15,000株以上	12枚
20,000株以上	16枚

※「6ヶ月優待ポイント数」とは、優待権利期間の6ヶ月の間に使用できるポイント総数です。

そのポイント総数の内、1ヶ月に使用できる上限のポイント数を示しているのが、「1ヶ月使用可能ポイント数」です。

※1名様につき、10ポイントが必要となります。なお、「新宿ピカデリー」のみ1名様につき20ポイントが必要となります。

新宿ピカデリーは公開の2週目（8日目）以降から利用可能です。「プラチナシート」「プラチナルーム」はご利用になれません。